

# 柏ノ城跡(志木市)

築城年代:平安時代、築城者:四面長者藤原長勝

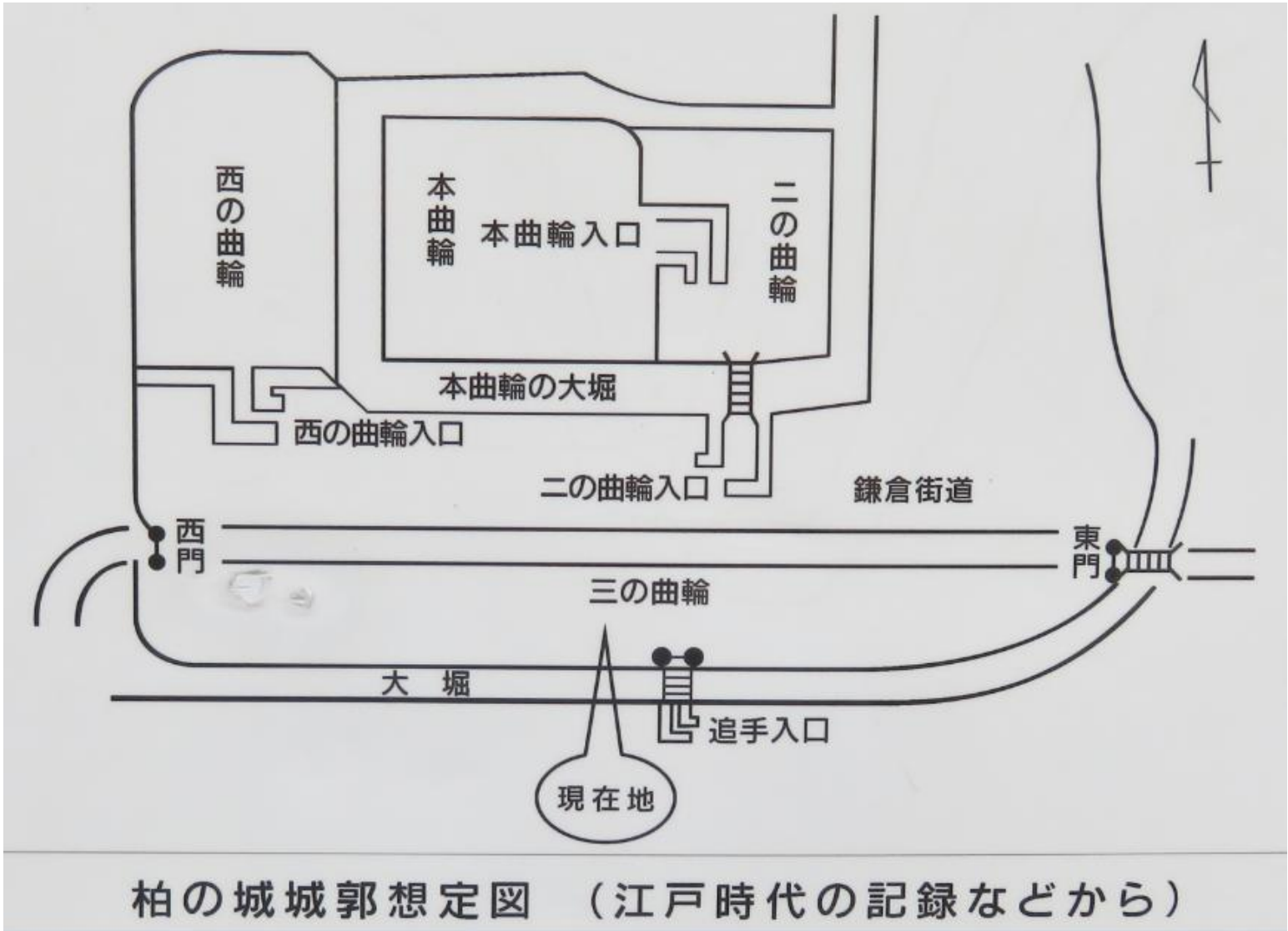
この川は柳瀬川/正面前方の対岸に柏ノ城跡がある



正面の志木第三小学校の校舎があるエリアが柏ノ城跡で、比高6m程の微高地の先端付近に築かれているという



現地の説明坂にあった縄張図/「西門」→「本曲輪」、「二の曲輪」→「東門」→「三の曲輪」→「大堀」→「西の曲輪」の順で見てみよう



柏の城城郭想定図 (江戸時代の記録などから)

まず、柳瀬川駅から北東方向に進むと前方に小学校の校舎が見えてくる



アップで見たところ/住宅の屋根の上に校舎が見える



一寸した坂を登ると校舎がある/今立っている所は縄張図によると「西門」があった辺りと思われる



振り返って「西門」があったと思われる場所を見たところ/道路もそれらしく左手に下がっている



縄張図によると、この正面の道路はかつての鎌倉街道のようだ





これは左手の道路を見たところ/この先は長勝院跡で「西の曲輪」があったエリア/こちらへは後程行ってみよう



さて、鎌倉街道であった道路を進むと小学校の校門があった



標柱と説明板が立っている



## 史跡 柏の城跡

この辺一帯を遺跡とする柏の城は、木曾義仲の子孫で武蔵屈指の豪族大石氏が室町中期に造った居館である。そして京都聖護院の門跡道興准后が文明十八年（一四八六）から翌年にかけて関東各地を巡歴した際の紀行歌文集『回国雑記』に見える「大石信濃守といへる武士の館」とされている。ここで言う大石信濃守とは大石顕重のこと、本城は現八王子市の高月城だった。

顕重以後の城主は定かではないが、大永年中（一五二一〜一五二五）に修築が行なわれ、本丸（運動場のほぼ中央）、西の丸（長勝院境域）、一の丸（わき道に沿った校地の一角）、三の丸（前の市道を背にする一帯の宅地）を備えるに至ったと伝えられる。

その後、大石氏は北条氏康に服属したが、天正のころは、大石越後守直久が城主だった。直久は顕重の曾孫大石定仲の長男で、天正九年（一五八一）から北条氏の指令に基づき、駿河国獅子浜城の城代となっていた。柏の城が豊臣勢に攻められて落城したのは、武蔵国のほかの諸城と同じ時期の天正十八年（一五九〇）。徳川家康が江戸へ入府すると、家臣福山月斎が新しい地頭として、この城地に居住した。

昭和五十四年十月一日

志木市教育委員会

文化財を大切にしましょう。

前方は小学校の校庭/この辺りは「二の曲輪入口」の辺りか



この運動場のほぼ中央が「本曲輪」/その「本曲輪」と右手の「二の曲輪」を取り巻くように「本曲輪の大堀」が巡っていたようだ



こちらが右手の「わき道」に沿った校地の一角で、「二の曲輪」とされるエリア



これは鎌倉街道であった道路の更に先を見たところ





少し進むと右手に下って行く/この先が縄張図の「東門」であろうか



振り返って「西門」方向を見たところ



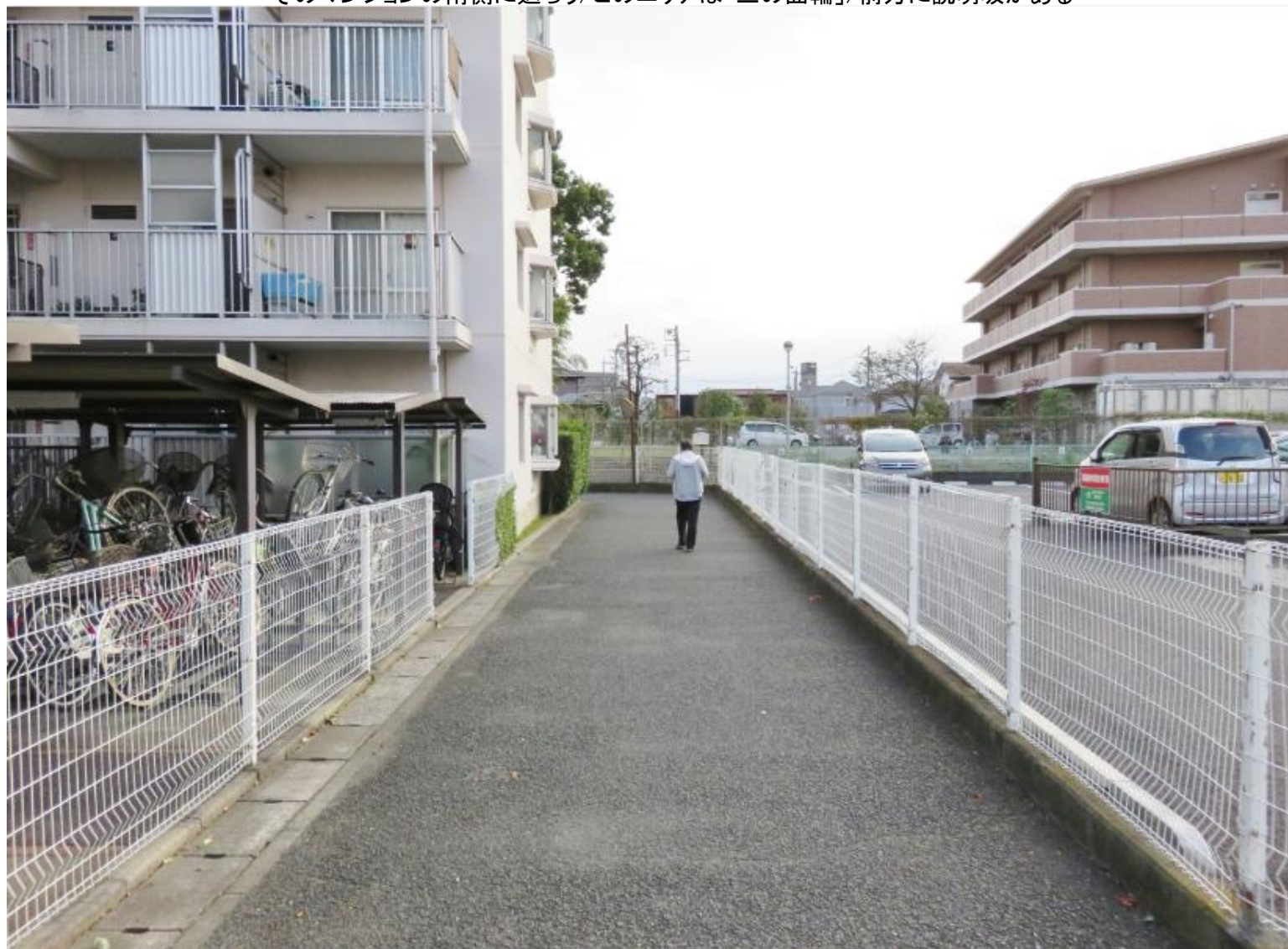
右手のこの道路が「わき道」で、左沿いの校地の一角が「二の曲輪」/この更に先には後程行ってみよう



そこで振り返ると南方向にマンションが立ち並ぶ



そのマンションの南側に廻ろう/このエリアは「三の曲輪」/前方に説明坂がある



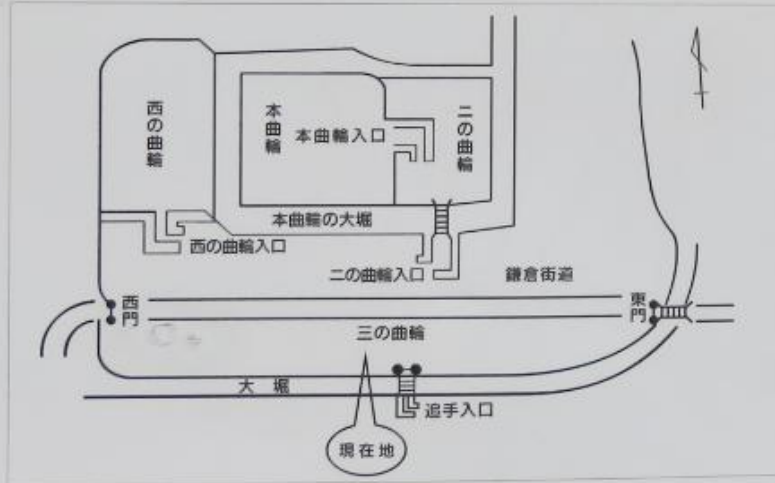
# 柏の城大堀跡

柏の城は、中世の城郭といわれていますが、築城年代や城主などは定かではありません。江戸時代の記録などによると、志木第三小学校の校地に本曲輪くるわ、その東側に二の曲輪、市道をはさんだ南側に三の曲輪、長勝院のあったあたりに西の曲輪が築かれ、南から東への平地に大堀を掘り、その南側を追手おんしやく(大手)としたといわれています。

昭和六十年、追手門と思われる部分を含む三の曲輪の発掘調査が行われ、大堀も約九十mの長さにわたって検出されました。昭和五十五年に市史編さん室が行った発掘調査の結果と総合すると、この大堀は上幅約十二m、底幅一・五〜二・五m、地表面からの深さ約四mを測る大規模な空堀であることがわかりました。

また、昭和六十年の発掘調査の際には、陶器・温石おんしやく(カイロ)・硯などの遺物が出土しました。

平成二十五年二月



柏の城城郭想定図 (江戸時代の記録などから)

志木市教育委員会

そこで左手(東方向)を見たところで、この道路となっている所から右手に上幅約12mの「大堀」が東西に走っていたようだ



振り返って西方向を見たところ





東方向に少し進んだ所で、道路は右手(南方向)に折れている/この辺りは「追手入口」のエリアであろうか



そこですぐ左手を見るとここも「大堀」跡の雰囲気漂う



振り返って西方向を見たところ



これはその左手を西方向に見たところ/この部分が一番「大堀」跡の雰囲気を感じられるかも/こちらは老人ホームの敷地のようなだ



その部分を反対方向から見たところ/左手が先程の道路



さて、今度は「西の曲輪」へと進もう/この手前のエリアは「西の曲輪入口」付近であろうか/前方は長勝院境域にある「西の曲輪」



この中が長勝院跡



南側から北方向に見たところ





右手を振り返ると説明坂が立っている



かしわ しろにし くるわ あと  
柏の城西の曲輪跡

柏の城は、関東管領山内上杉家の重臣大石氏一族の戦国初期からの居館といわれていますがその築城年代などは一切不明です。

江戸時代の享保十二年（一七二七）から同十四年にかけて館村（現在の志木市柏町・幸町・館地区付近）の名主宮ヶ原伸右衛門仲恒により執筆された「館村旧記」によると、志木第三小学校地に本城が、その東側に二の曲輪、市道をはさんだ南側に三の曲輪が、そしてこのあたりには西の曲輪があったとされています。

このあたりはかつて亭の台ともよばれ、在原業平の座所として設けられた館の跡であるという伝説も伝わっており、古来よりこの地域を統括するような有力な人物に関係するなにかの施設があったらしいことが推測できます。

また、館村八景の一つに「亭の下の夕照」とあるように、この付近は、秩父連山から富士山まで眺望できる景勝の地としても有名な所でした。

平成六年二月二十五日

志木市教育委員会

足元にはさまざまな石仏があった



南西側から北東方向に見たところ



「長勝院旗桜」なるものがあった





樹種名  
イヌハタザクラ  
長勝院旗桜

イヌハタザクラは、長勝院に伝来する古木で、樹齢約100年と推定されています。花は白く、香りが強く、秋には紅葉します。樹皮は粗く、縦に割れ目があります。



樹種名  
イヌハタザクラ  
長勝院旗桜



平成六年二月二十五日

### チョウショウイハタザクラ (長勝院旗桜)

目通り樹周リ(目の高さ位の所の樹の周囲)三・〇五m、高さ十一・二〇m  
推定樹齢四百年以上のハタザクラ。  
花は大きく、一重咲きの花に雄しべの一部が花弁状に変わった旗弁(一、二枚)を生ずるヤマザクラ(バラ科)の一型で開花時の花付きは極めてにぎやかです。  
県内各地の桜と比較しても巨木の中にはいるもので、樹幹等の点からみても大変貴重なサクラです。  
またかつてこの地にあったともいわれる拍の城の歴史を語る生き証人としても大変重要な桜で、今後大切に保護保存していくべき桜です。

平成六年二月二十五日  
志木市教育委員会



旗弁

解説  
長勝院ハタザクラが21世紀に残したい  
1956年と自慢1956年に選ばれた  
平成に花うた  
指定する者として1956年10月25日指定された  
長勝院、長勝院、土屋、旗弁  
旗弁、旗弁、旗弁

西側から東方向に見たところ/前方が「西の曲輪」のエリアらしい





境内にはさまざまな石造物があった









さて、これは長勝院跡入口から西方向を見たところで、西隣に墓地がある



市営墓地のようだ



その墓地の北側にこんな感じの所があった/左手は斜面となって下っており、ここは城域の周囲の土塁跡かもしれない/右手が墓地



そこを北側から見上げたところ





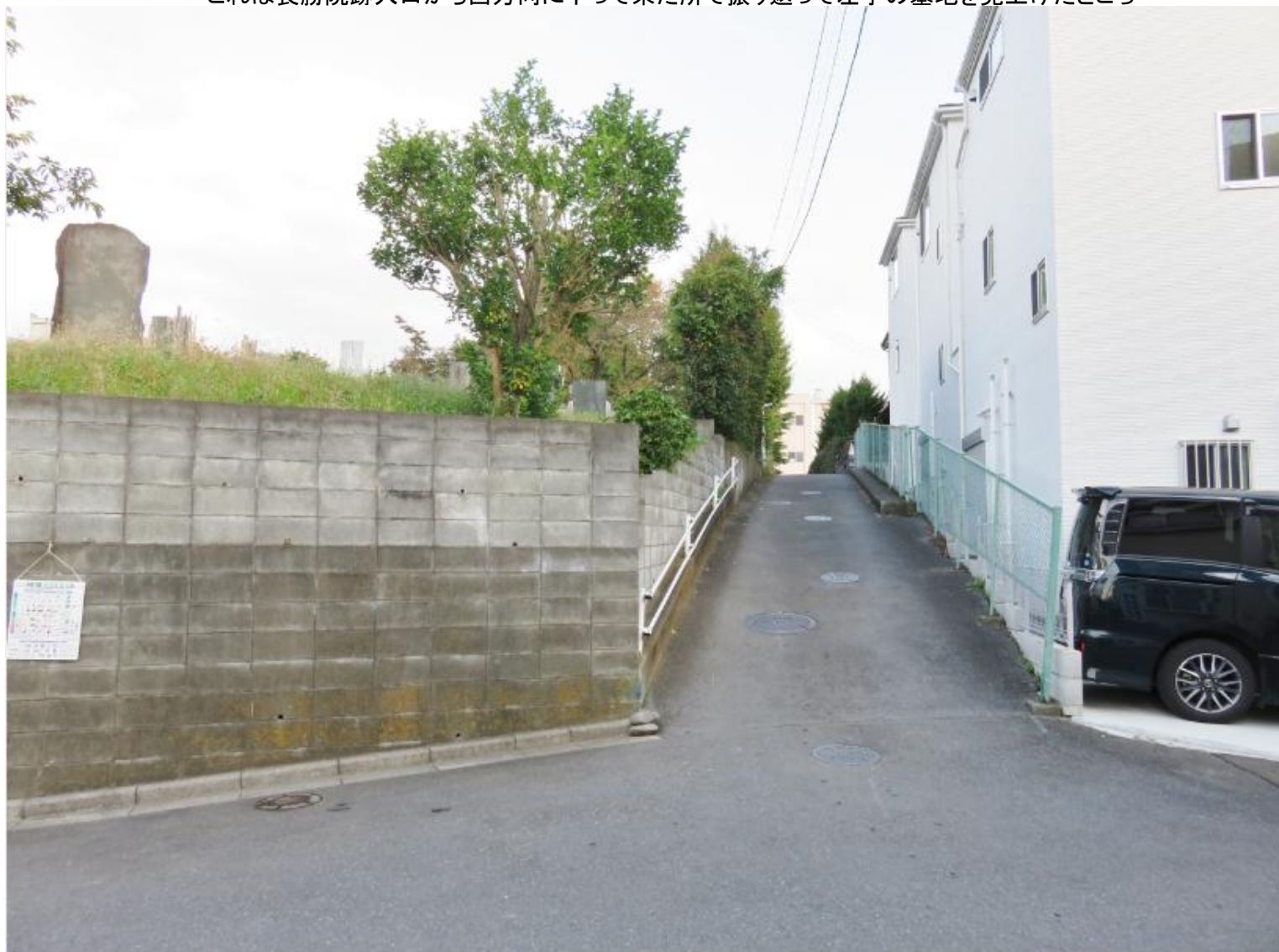
その少し左側(西側)はこんな感じになっている/前方は志木中継ポンプ場/右手に鉄塔が立っている



その鉄塔の方から見ると前方の斜面は如何にも城壘のような雰囲気、その上部には土塁が廻っていたのかもしれない



これは長勝院跡入口から西方向に下って来た所で振り返って左手の墓地を見上げたところ



左手を見ると墓地の周囲がこれだけ下がっている



墓地の敷地から同じ方向を見たところ/城塞のような雰囲気、この上部には土塁が廻っていたのかもしれない



墓地を廻り込んで進むと前方はポンプ場で行き止まりとなっている



これはその行き止まりで墓地を見上げたところ



これはポンプ場の西側に行って東方向を見たところ/墓地から見えた鉄塔と城壘のような斜面が見える





その斜面をアップで見たところ



そこで左手を見ると天然の要害柳瀬川が見える



さて、最後に小学校の「わき道」を北方向に進んでみよう/道路は前方で右手に折れている



その右手に折れている所で振り返って見たところ



右手を見ると志木中学校の校庭となっている



前方の木々の左手は高くなって小学校のエリアとなっている/ここが城域の北端と云う事であろうか



道路の左手を見るとマウンドがあり、標柱と説明坂が立っている



これは「城山貝塚」のようだ





## 城山貝塚

この貝塚は、柳瀬川低地を臨む台地の突端に位置し、標高約十メートル、柳瀬川低地との比高差は約四メートルあります。周辺からは、縄文時代前期約五千年前の諸磯式期の住居跡が発見されており、この貝塚も、同時代のものと推定されます。

縄文時代前期頃は、気候が大変温暖な時代で現在に比べ平均気温が二度程高く、これにより極地の水がとけ海面が平均三メートル程上昇していました。そのため海は内陸深くに浸入しており、今よりずっと近くにせまっていたようです。

貝塚は、縄文人たちが貝殻等を捨てたいわはゴミ捨て場のようなものですが、当時の食文化等を知ることができる大変貴重な資料でもあります。

城山貝塚から採集された自然遺物は今のところヤマトシジミ、マガキ、ハマグリ等の合わせて十一種の貝類が確認されています。

なお、「城山」とはこの辺一帯の字名です。

平成二年三月三十日

志木市教育委員会

文化財まっぴ歴史散歩案内編

Bコース館村をあるく～古代～中世のロマンを求めて～

# 城山貝塚

次は柏の城跡です

## 城山貝塚

この貝塚は、柳瀬川低地を臨む台地の突端に位置し、標高約十メートル、柳瀬川低地との比高差は約四メートルあります。周辺からは、縄文時代前期(約五千年前)の諸磯式期もろいせの住居跡が発見されており、この貝塚も、同時代のものと推定されます。

縄文時代前期頃は、気候が大変温暖な時代で現在に比べ平均気温が二度程高く、これにより極地の氷がとけ海水面が平均三メートル程上昇していました。そのため海は内陸深くに浸入しており、今よりずっと近くにせまっていたようです。

貝塚は、縄文人たちが貝殻等を捨てたいわばゴミ捨て場のようなものですが、当時の食文化等を知らることができる大変貴重な資料でもあります。

城山貝塚から採集された自然遺物は今のところヤマトシジミ・マガキ・ハマグリ等の合わせて十一種の貝類が確認されています。

なお、「城山」とは、この辺一帯の字名です。

平成二年三月三十日

志木市教育委員会

住宅でかなり破壊されているが、辛うじて残されている



参考ホームページ

<http://jyokakuzukan.la.coocan.jp/001saitama/422kashiwa/kashiwa.html>

<http://yogokun.my.coocan.jp/saitama/sigisi.htm>

<http://ckk12850.exblog.jp/9596515/>

<http://4619.web.fc2.com/shiro571.html>

[http://www.geocities.jp/y\\_ujoh/kojousi.kashiwanoshiro.htm](http://www.geocities.jp/y_ujoh/kojousi.kashiwanoshiro.htm)

<https://keiryusai.com/archives/2615>

